



新島襄の「愛人主義」に基づく「国際主義」の新拠点

「EUキャンパス」



和田 喜彦

EUキャンパス支援室長
経済学部教授

田中 竜哉

国際連携推進機構 事務部長
EUキャンパス支援室 事務長



昨年度に実施した第1回「EUキャンパスプログラム」は際立つ成果をあげました。これを徹底サポートした和田喜彦EUキャンパス支援室長と田中竜哉国際連携推進機構事務部長・EUキャンパス支援室事務長に新島襄が掲げた「愛人主義」を根幹とする「国際主義」の真意同志社大学とチュービンゲン大学が長年にわたって構築した格別の信頼関係新たな「EUキャンパスプログラム」に託した熱き思いなどを語っていただきました。

新島襄の若き日々を追体験し 広く深く世界を知って欲しい

田中 激動の幕末に日本の将来を憂い、世界を広く知るために、新島襄が鎖国の禁を犯して出国したのは21歳の時でした。まさに同志社大学で学ぶ学生と同じ年頃です。彼が数多くの貴重な経験を積み、模索を重ねた末に、最も重要だと確信したのが世界で高く評価される人材の育成でした。多様な文化や異なる価値観を受け入れ、次代の発展に貢献できる真の国際人を生み出したいと考えたのです。その理想の具現化を推し進め、大きく伸展させるために、2017年度に本学初の海外キャンパスとしてドイツのチュービンゲン大学内に開設したのが「EUキャンパス（同志社大学チュービンゲンEUキャンパス）」です。この新たな拠点で昨年度から「EUキャンパスプログラム」が始動しました。私たちは学生の皆さんがこのプログラムに参加することによって若き日の新島襄の熱き歩みを追体験し、その実感に基づいて掲げた教育理念の一つである「国際主義」の真意を深く理解して欲しいと願っています。



和田 新島襄の建学の精神も教育理念も海外に飛び出し、各地で学んだことが起点になっています。瑞々しい感受性に恵まれ、刺激に満ちた新たな体験を柔軟な思考で積極的に取り入れ、貴重な糧にできる青春時代に世界を知ることには非常に大切なことです。その価値は計り知れない。私が切に願うのは数多くの「次代を担う新島襄」を創出することです。「同志社大学設立の旨意」にも「一国を維持するは、決して二三英雄の力に非ず、実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に抛らざる可からず」と記されています。世界を広く深く知り、そこから得た学びを自らの力として新島襄

の教えを実践して欲しいのです。

「愛人主義」を根幹とする 唯一無二の「国際主義」を

和田 新島襄は欧州の教育機関の視察後、最も高く評価したのがドイツでした。遙かな時を超えてその思いが結実したのがドイツを中核にヨーロッパ諸国を視野に入れた「EUキャンパス」です。それは彼が確固たる姿勢で提唱した「愛人主義」に基づく「国際主義」の新拠点です。新島襄は『新島襄教育宗教論集（298頁）』で次のように述べています。「一人一人を愛するの説は大いに愛国よりは狭きに似たれども、人を愛するは、一国に限らず世界の人をも人と見なしてこれを愛せば、決して区域の狭き者にあらず」。彼は外国を敵視する偏狭な「愛国主義」の対極として「愛人主義」を掲げました。「人を愛する」という普遍的な観念が民族や国家を超えて世界の全ての人々を愛することに繋がると考えたのです。「愛人主義」を根幹とする「国際主義」は、同志社設立以来、不変の教育理念であり、いわゆる国際化とは根本的に異なる唯一無二のものなのです。この視点に立てば、新島襄が目指した真の国際人の姿が明確に見えてきます。「EUキャンパス」において「グローバル化」への取り組みを「展開」から「深化」へと変革させたいと思っています。それは本学独自の新たな「グローバル」に向けた挑戦であり、外国に海外事務所を設置するというこれまでの「グローバル化」とは一線を画すものです。「EUキャンパス」の開設によって同志社大学は新たな一歩を大きく踏み出したのです。

田中 例えば、教育理念の「自由主義」であれば、これを直感的に理解できる「個儻不羈（てきとうふぎ）」という有名な言葉が語り継がれています。これに対して新島襄が掲げる「国際主義」の真意を表す象徴的な言葉を考えた時、その基幹をなす「愛人主義」が最もふさわしい。これまで表舞台にはあまり出てこなかった言葉ですが、この機会にその意味を改めて学生はもとより多

くの方々に熟考していただき、新島襄が目指した「国際主義」の在り方を理解していただければと願っています。今日、多くの大学で「国際主義」が重要なテーマとして掲げられ、国際人の育成に力が注がれています。しかし、「愛人主義」を起点とする同志社大学の「国際主義」は他にはなく、また真似のできないものなのです。

和田 新島襄は「博愛」を何よりも重んじたのです。建学の精神「良心教育」の「良心」は英語で「CONSCIENCE」であり、原義は「共に知る」です。互いの立場に立って考え、深く理解する。これは「愛人主義」に繋がるものだと考えています。

田中 補足になりますが、新島襄自身は「国際主義」という言葉は使用していません。また、「愛人主義」はチュービンゲン大学との関係構築にも大きく寄与・貢献できるものだと確信しています。



▲ EUキャンパス内に掲げられる予定の新島先生の肖像とともに

エングラール学長の心を捉えた 同志社大学の「永遠の価値」

和田 「永遠の価値の前では他の価値は相対的に低くかすんで見える」。これは同志社大学からの訪問団に対してチュービンゲン大学のエングラール学長が述べられた17世紀のオランダの偉大な哲学者スピノザの言葉です。「その心は…」とエングラール学長は次のように語られました。「同志社大学は26年間にわたり、学内に『チュービンゲン大学同志社日本研究センター』を置いてくださり、その運営への支援を惜しみませんでした。『誠実さ』という『永遠の価値』を同志社大学は提供してくれたのです。それゆえ両大学の関係を極めて大切に思っています。京都の大

学と関係を築くのならば他にも優秀な大学があるじゃないかという学内の意見に対して、このスピノザの言葉で反論しています」。数世紀前の時代を生きたスピノザがエングラール学長を通じて現代に生きる私たちに語りかけ、時空を超えて「EUキャンパス」の誕生を後押ししてくれたのです。1477年に創立されたチュービンゲン大学は建学以来、「革新性」、「学際性」、「国際性」を理念に掲げ、数多くの著名人を世に送り出し、ノーベル賞受賞者も輩出してきたドイツ屈指の名門大学です。例えば、アメリカ最古の歴史を誇るハーバード大学は、立ち上げ時に、チュービンゲン大学を模範としたと語り伝えられています。新島襄が欧州歴訪時の教育機関の視察において特にドイツの大学に注目し、チュービンゲン大学を5つの有力大学の1つとして挙げたことをエングラール学長に申し上げると、「ハーバード大学に続き、我々の大学を高く評価してくださったのが同志社大学の新島襄先生だということを知りました。非常に嬉しく思います」と微笑んでおられました。

田中 特に戦後、ドイツは「永遠の価値」を守ることに努力してきました。例えば、「人間の尊厳」、「人権」、「自由」などです。これは新島襄の「愛人主義」に通じるものです。これを背景とした同志社大学の「誠実さ」が「永遠の価値」としてエングラール学長の心に深く響いたわけです。本当に素晴らしいことだと思います。また、チュービンゲン大学にはカトリックとプロテスタントの2つの神学部があり、同志社も神学部で一神教研究を行っています。ダイバーシティという観点でも親和性が高いのです。

和田 チュービンゲン大学は海外の協定校に関して複数のカテゴリーに分けて連携を行っています。その最高位にあたるのが「戦略的に重要な連携校」であり、世界各国から19の大学・研究機関を厳選しています。その1つが同志社大学です。この中に入るといことは凄いことです。これを見ても、長年にわたり築いてきた両大学の信頼

関係が際立つものであるということが分かります。最上位のパートナーシップで結ばれているのです。チュービンゲン大学がドイツ国内11の卓越大学の1つに昨年再選された時、松岡敬前学長がお祝いの手紙を送ったのですが、エングラール学長からのお返事は事務的な定型文ではなく、同志社大学との関係に言及した心のこもったお返事であったことも印象深く鮮明に憶えています。



本年度実施プログラムは募集開始直後に定員超過

和田 2019年4月から8月まで「EUキャンパス」における初めての学生プログラムとして「EUキャンパスプログラム」を実施しました。非常に好評で大きな成果をあげることができました。参加した学生たちの「声」が他の多くの学生に届いたのだと思いますが、2020年度の春・秋学期実施の「EUキャンパスプログラム」は直ぐに定員満杯になり、すでに締め切りました。昨年、参加した第1期生たちは「このプログラムに生命を吹き込み、充実させるのは自分たちだ」、「私たちの姿勢によって今後のプログラムの在り方が決まる」という思いが非常に強く、極めてポジティブに取り組んでくれました。心から感謝しています。また、全ての参加学生にフェイスブックを通じて各自の視点で記事と写真を日々発信してもらい、これを本学の国際センターから継続的に配信しました。この効果もかなりあったと思います。また、チュービンゲン大学にも大きなメリットをもたらすことができたと確信しています。「EUキャンパスプログラム」の具体的な内容としては、まず語学研修プログラム「セメスタープログラム・ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」を実施しました。これはチュービンゲン大学の教員によるドイ



ツ語の授業で、フィールドトリップや現地の小学校訪問などの学外実習も含まれています。チュービンゲン大学の日本学科の学生との共修である「Intercultural Studies」や本学教員による「EUキャンパス特別講義」では、異なる価値観や文化だけでなくEUについても学びました。「Intercultural Studies」には本学で学んでいたチュービンゲン大学の学生も参加し、コミュニケーションを深め、モチベーションも高まり、日本学科にとっても効果大でした。授業以外の「Language Tutorial」ではチュービンゲン大学のティーチング・アシスタントからドイツ語でドイツの生活（イースターの歴史、地元のマーケットでの買い物、ジュエリー製作など）を学び、「Buddy Program」では日本人学生と日本に行く前の日本学科のドイツ人学生がペアになって互いの言語を教え合いました。また、プログラム終盤には日本人学生がお世話になったチュービンゲン大学の教職員、学生などを招待して「Farewell Party」を開催し、さらに交流を深めました。本学の現地駐在スタッフによるきめ細やかなサポートも勉学と生活の両面で役立ったと実感しています。

必修科目を両大学が正規に設置他にはない画期的な試み

田中 第1回「EUキャンパスプログラム」は私どもの期待を上回る確かな成果を得ることができました。この実績に基づき、改めて「EUキャンパス」で学ぶ学生に対して「どのような教育プログラムが良いのか」ということを徹底的に討議し、2020年度は春学期（3月～8月）には前年度に続く「ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム」、秋学期（9月～1月）に

は新たに「ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム」を開講します。「ドイツ語・異文化理解EUキャンパスプログラム」はドイツ語の運用能力の向上を図ると共に、ドイツ・EUの異文化や価値観などをドイツ語・日本語で学ぶプログラムです。「ヨーロッパ・スタディーズEUキャンパスプログラム」は文化・宗教・社会・政治・法律・経済・環境・人権・ジェンダー・移民・難民など複合領域的な観点からドイツ・EUの歴史と現状および諸課題を英語（または日本語）で学ぶプログラムになっています。春学期のプログラムは全学共通教養教育科目で構成し、秋学期のプログラムは本学初の試みである学部専門科目のプログラムを実施します。海外キャンパスの要件の一つに「本学学生の教育活動が定期的に行われていること」が掲げられていますが、春・秋学期に2つのプログラムを設置することによってこの要件も満たすことができました。

和田 秋学期のプログラムはチュービンゲン大学が世界の留学生向けに展開してきたIES (International & European Studies) 科目を同志社大学のために特別にカスタマイズした6科目を提供していただき、本学も神学部・文学部・社会学部・法学部・経済学部・政策学部の6学部からEUキャンパスで学ぶという観点に立った6科目を提供しています。合計12科目です。また、春学期のプログラムには4つのフィールドワーク、秋学期のプログラムには6つのフィールドワークを付加しています。

田中 特に注目していただきたいのはこれらの科目（春学期「Intercultural Studies」および秋学期IES科目）は両大学が正規に設置した共修科目であるということです。同志社大学の科目であり、チュービンゲン大学の科目なのです。これまでの留学では先方の大学の科目を取り、それと合致する本学の科目を選定して認定していましたが、

共修科目は双方の学生が学ぶ科目であり、根本的に異なります。設置にあたっては両大学の教育理念において一致したものを選び、お互いに必要と考えた科目を両大学の学生が共修するのです。現在の他大学にはこのような事例はありません。まさに画期的な試みなのです。同志社大学の学生はチュービンゲン大学に「留学」するのではなく、今出川校地や京田辺校地の延長線上にある本学初の海外キャンパス「EUキャンパス」に赴き、学ぶのです。また、「EUキャンパスプログラム」の派遣留学生には同志社大学を代表する交換留学生というポジションが与えられます。



多彩な研究発表が行われ、両大学の研究交流が深まる

DOSHISHA WEEK 2019 開催

2019/11/25-29

第1回となる今回は5日間で3つの大きなテーマを設定し、研究発表が行われました。チュービンゲン大学（以下UTと記載）には、会場の確保やレセプションの手配だけでなく、プログラムの内容決定、登壇者の選定・調整などに協力いただき、多くのUTの研究者にも登壇いただきました。初日の25日はAlte Aulaを会場にオープニングとして横川副学長による同志社大学の紹介、研究トピックス、同志社大学EUキャンパス、両大学のこれまでの関係を含む開催挨拶に続き、シェアー副学長（国際担当・UT）の挨拶、アントーニ日本学科教授（UT）の講演が行われました。オープニング後は、「A Great Contribution to Maintaining Human Health Both in Space and on Earth」をテーマに同志社大学宇宙生体医工学研究プロジェクトから本学の研究者2人と学生1人、

UTから研究者1人による研究発表が実施されました。

26日～28日の3日間は、会場を新たにSchloss（チュービンゲン城）に移して「Modernity's Challenges to Law and Dispute Resolution」をテーマに、本学法学部・司法研究科とUT法学部の研究者、両大学と繋がりのある他大学の研究者、民間の法律関係機関に所属する専門家による研究発表がなされました。また、29日の最終日は、会場をさらにUniversity Hospital of Psychiatry and Psychotherapy（精神医科系の病院）に移し、「Baby Science: Past, Present, and Future」をテーマに本学の赤ちゃん学研究センターの研究者2人、UT研究者3人、他大学の研究者1人による研究発表が行われました。これを機に、両大学の研究交流がさらに活発化し、大きな成果に繋がるのが期待されています。

